

本市は、今年度から「スマート農業」と「環境にやさしい農業」を掛け合わせた本市独自の「スマートオーガニックシティ」に向けた取り組みを進めています。

良質な土づくりを進め、スマート農業技術を駆使することで、効率的で環境にやさしい農業を目指すスマートオーガニックシティ。今回はその取り組みと背景を紹介します。



新しい農業のかたち

スマート オーガニック シティを目指して

固市農政課複合経営振興係 ☎26-5752



スマート農業



環境にやさしい農業

スマート農業とは？

農業×先端技術で広がる可能性

スマート農業とは、データや知識、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化や精密化、高品質生産の実現などを推進する新たな農業のことです。

本市では、令和3年10月に「もっけ田だのう農学校」を開校し、知識やデータを活用した農業を実践できる人材の育成を行っています。ドローンによるセンシングで農作物の生育状況などを把握・解析し、生産管理に生かす「データを活用する農業」などに取り組み、省力化による負担軽減と生産性の向上を目指しています。



▲ドローンを使ったもっけ田農学校の講義の様子

なぜ、いま、環境にやさしい農業なの？

これからの農業を考える上で欠かせないのがSDGsサステイナブルな開発目標。2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs（Sustainable Development Goals）は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。環境や持続性に配慮するSDGsの取り組みは、農産物や食品などにも広がりを見せています。



環境にやさしい農業に向けた取り組み

環境保全型農業直接支払事業による支援

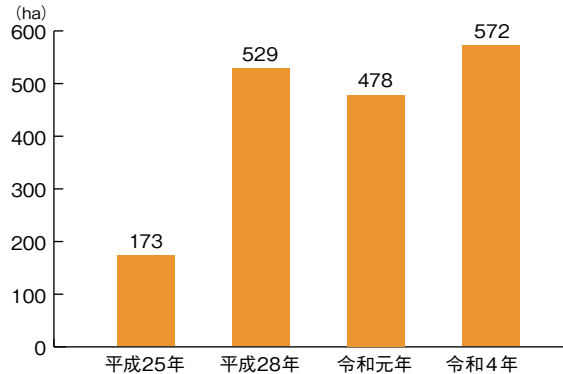
化学肥料や化学合成農薬を原則5割以上低減する取り組みと、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果が高い営農活動を組み

農作物を生産する耕種農家が畜産農家へもみ殻などを提供し、畜産農家が耕種農家へ堆肥を提供する「耕畜連携」を推進しています。

良質な土づくりは、安定した品質・収量を確保するための基本となるものです。

耕畜連携による循環型農業の推進

環境保全型農業直接支払事業による支援面積 (ha)



合わせて実施した農業者団体を支援しています。

令和4年度の支援面積は572ヘクタールで、平成25年度と比較すると3.3倍に増加しました。



▲堆肥散布の様子



支援初年度の令和4年度には152ヘクタールの農地で、もみ殻を活用した堆肥散布に支援しました。

農業支援制度について詳しくはこちら



スマートオーガニック検討会立ち上げ

5月に官民で新しく「スマートオーガニック検討会」を立ち上げました。

有機農業などの推進や、流通・加工・消費段階での取り組みなどを話し合い、市全体で環境にやさしい農業を広げられる環境づくりを進めています。

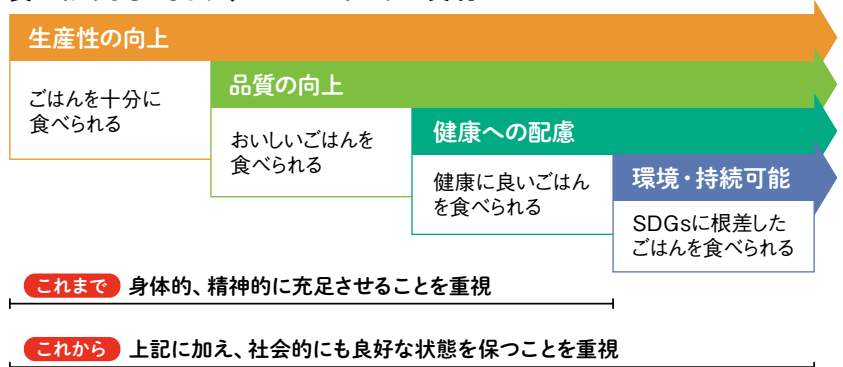


これからの食、これからの農業

「食」を考えると、これまで、十分な量、品質の良さ、健康などが重視されてきました。これからの食は、これに加え、環境や持続性への配慮が求められます。それらを満たすことは、食におけるSDGsやウェルビーイング※の実現につながります。

※ウェルビーイング (Well-being) / 身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念

食におけるSDGsやウェルビーイングの実現



農業においても、今後より一層環境と調和した農業への転換が国際的にも主流となつてきます。本市ではスマート農業技術の活用などによる持続可能な循環型農業に取り組むことで、収量確保と環境にもやさしい農業の両立を進め、夢があり、儲かる農業の実現を目指します。